屋久島で繁殖するコマドリ *Erithacus akahige* の分類学的再検討

梶田 学

屋久島で繁殖するコマドリの個体群は，日本鳥類目録改訂第 6 版（2000 年発行）によれば，亜種タネコマドリ *E. a. tanensis* に分類されている．

亜種タネコマドリは，1922 年 3 月 22 日に種子島で採集された♂1 個体（標本は焼失）をタイプとして記載された亜種であるが，現在では屋久島と伊豆諸島がその繁殖分布域と考えられている．このように極端な隔離分布を示す分類群は，両地域になんらかの関連があることを示唆するものとして，生物地理学的に興味深い研究対象となることが多い．しかし，同じ亜種タネコマドリに分類されているものの，屋久島の繁殖個体群は標高 1100～1800m のヤクスギ帯に生息するのに対し，伊豆諸島の繁殖個体群は標高の低い照葉樹林帯などに生息するといった生態的な違いが知られている．また，屋久島で繁殖するコマドリは，形態的な相違から 1940 年に亜種ヤクコマドリ *E. a. kobayashii* として，亜種タネコマドリとは別に記載されたことがある（現在は，亜種タネコマドリのジュニアシノニムとされている）．

現在，同一亜種と考えられているにもかかわらず，上記のように生態学的な相違点も指摘されている屋久島と伊豆諸島の繁殖個体群が実際に同一分類群であるか否かを再検討にするため，屋久島で繁殖期に採集された 3 標本（*E. a. kobayashii* のタイプ．現在，兵庫県立人と自然の博物館所蔵）と現在屋久島に生息するコマドリ（2005 年 6 月捕獲，♂2 個体）について外部形態の調査を行った．

その結果，屋久島で繁殖するコマドリの雄には胸に顕著な黒い横帯があり，伊豆諸島で繁殖する亜種タネコマドリ（胸の黒帯を欠いている）とは，明確に区別できるものであることが明らかとなった．従って，屋久島の繁殖個体群は，少なくとも亜種タネコマドリには分類されないと考えられる．屋久島の繁殖個体群に見られる胸の黒帯は，サハリンから九州まで繁殖分布するとされている基亜種コマドリと特徴的に一致し，両者は非常によく似ている．しかし，屋久島の個体群は基亜種コマドリに比べ羽色がより暗色である点で区別ができるという見解もある（Momiyama 1940, Vaurie 1955）．従って，屋久島の繁殖個体群と基亜種コマドリが分類学的に区別可能か否かについて結論を出すには，これまで形態学的な調査が行われていない九州の繁殖個体群をも含めた今後の研究が必要である．なお，この点が明らかになるまで，屋久島の繁殖個体群は，かつて採用されていた亜種ヤクコマドリ *E. a. kobayashii* として他の亜種からは独立させておくのが，妥当だと考えられる．

＜引用文献＞ Momiyama T. 1940 Dobutu. Zasshi [動物学雑誌], 52: 462-464.

Vaurie C. 1955 Amer. Mus. Novit., (1731): 1-30.